

認知戦と戦略的コミュニケーション<sup>(P1)</sup>  
情報関連機能<sup>(P5)</sup>  
防衛と経済の好循環<sup>(P9)</sup>

令和 8 年 6 月  
防 衛 省



# 認知戦と 戦略的コミュニケーション

# 認知戦と戦略的コミュニケーションの現状 (ロシアによるウクライナ侵略における認知戦の事例)

## 【ロシア】

### 偽アカウントの活用

- ✓ 信頼性の高い西側メディアを模したなりすましサイトを精巧に作成し、偽のSNSアカウントで捏造記事を拡散

「ウクライナ人が自国の都市を砲撃している」  
「NATOはウクライナを見捨てる」

### ディープフェイク等の偽動画の活用

- ✓ ゼレンスキー大統領が降伏を呼びかける偽の映像が拡散

ウクライナは迅速に否定も、  
一時的に混乱と不信感を醸成

## 【ウクライナ】

### 国内外への戦略的な発信

- ✓ 偽情報のモニター等を担当する戦略的コミュニケーション・情報安全保障センター (SPRAVDI) を設立し、偽情報対策や戦略的コミュニケーションを積極的に展開
- ✓ 広告代理店と協力し、ウクライナ国民の勇敢さを讃えるブランド戦略を展開
- ✓ ウクライナ政府関連の公式アカウントを通じた侵略に関するリアルタイムな情報提供

### 民間企業等の支援・参画

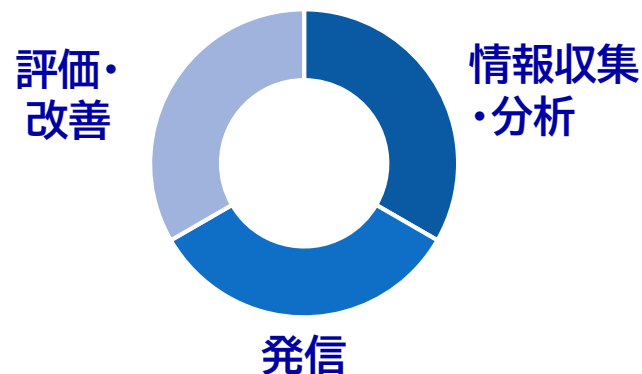
- ✓ 民間企業やNGOがサイバー防御、ファクトチェックなどで支援
- ✓ ロシアの影響工作に対抗する過程では市民主導のOSINTコミュニティも参加

# 認知戦と戦略的コミュニケーションに係る取組のあり方

## 問題意識

AI技術の進展等により、偽情報の拡散が加速する等、認知戦への対応がより一層困難になる可能性。認知戦対応サイクルを確立し、取組を推進すべきではないか。

## 認知戦対応サイクル



## 取組のあり方

防衛省・自衛隊の活動の多くがメッセージ性を有するため、認知戦の側面を持ち得ることを認識し、平素の段階から我が国の安全保障にとって望ましい情報環境を構築し、有事における戦略的資産として機能させる。

このため、幅広い部署の取組を活用しつつ、戦略的な情報発信機能を特に強化していくとともに、その前提となる情報収集・分析・評価機能やそれを支える基盤の強化も更に進める。

# 認知戦と戦略的コミュニケーションに係る検討の方向性

## 情報収集体制・機能の強化

情報本部の体制整備(令和6年度～)

情報戦業務を担う部署を新設

各自衛隊の体制整備(令和7年度～)

部隊レベルの情報戦能力の強化のため、  
情報戦を担う部隊を新編

収集手段の整備(令和6年度～)

SNS分析ツールの導入

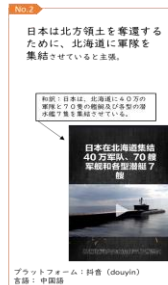
## 情報発信機能の強化

正確な発信・社会のレジリエンス強化

最近の防衛省・自衛隊等に関連する偽情報の事例

▶ 下記はいずれも偽情報。

投稿日: 2024年7/31  
No.2 閲覧数/29  
No.3 閲覧数/178



## ○ 情報発信に係る体制強化

- 我が国の活動の評価を毀損するような発言に対する社会のレジリエンスを高めるとともに、国際社会の支持を得るため、平素から、同盟国・同志国等とも連携し、我が国の防衛政策等の取組の必要性及び正当性を**能動的かつ重層的に、国内外に向けて発信**
- 偽情報の拡散などにスピード感をもって対応**
- 関係省庁とも連携しながら、これらを実現するため、戦略的コミュニケーションを含め、**認知戦に係る発信体制を強化**

## ○ 情報収集から情報発信のサイクルにおけるAIの活用

- SNS等の**膨大な公開情報を広く・効率的に収集(OSINT)**
- 最新の技術を適時適切に取り込みつつ、部外力を積極的に活用**するとともに、情報収集から情報発信のサイクルにおいて、**AIを活用**

# 情報関連機能



# 情報関連機能の現状

## 情報（インテリジェンス）の重要性

意思決定の質の向上

（データに基づく客観的な評価）

競争の優位性

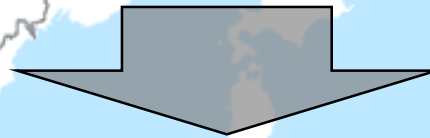
（相手に先駆けた戦略立案・相手の意思決定の弱体化）

リスク管理の強化

（潜在的リスクの早期発見・対策）

効率的なリソース配分

（部隊行動等の最適化）



- 侵略等を未然に抑止するための戦略的兆候や事態の兆候把握に資する情報環境の優劣は、平素の段階からの戦い
- 政策・部隊行動の意思決定の優越に直結する価値を有するものであり、情報が我が国防衛の成否を左右

# 情報関連機能に係る取組のあり方

## 問題意識

- 周辺国の活動の活発化による情報所要の増大や、昨今のAIや通信技術などの著しい技術革新を踏まえると、情報関連機能をより一層強化していく必要
- 政府全体のインテリジェンス機能強化にも貢献していく必要

## 取組のあり方

- 隙の無い多層的な情報関連機能を確保し、我が国の守りを支える情報関連機能を強化するとともに、組織横断的な共有体制を一層強化することにより、総合的な情報関連機能を強化
- これらの取組の基盤として、情報保全態勢を抜本的に強化

# 情報関連機能に係る検討の方向性

これまでの主な取組

## 画像衛星コンステレーションの構築

令和9年度末から本格運用を開始予定

## 電波情報収集機(RC-2)の配備

初号機の配備完了後、令和12年度中の4機体制の完整に向け、整備を実施中

## 情報関連機能の強化

- 広域かつ多層的な情報収集態勢を強化するため、南西地域及び太平洋側における情報収集網を整備
- 我が国の守りを支える情報関連機能を強化するため、画像衛星コンステレーション等、スタンドオフ防衛能力発揮のためのターゲティングに資する情報関連機能を強化
- 収集・分析した情報を最大限活用するため、組織横断的な共有体制を強化するとともに、民間力やAI等の先端技術の活用を含めた取組を推進

## 情報保全態勢の強化

- アナログな情報保全業務のデジタル化によるヒューマン・エラーの局限と自動化・効率化
- 平時から有事までを見据えた現場での運用に支障のない情報保全態勢の確立

検討の方向性



# 「防衛と経済の好循環」の実現

# 「防衛と経済の好循環」実現の必要性

## なぜ「防衛と経済の好循環」か

- **今後の防衛力強化**に当たって、「新しい戦い方」を踏まえた我が国独自の対応や持続的な対応能力の強化等に取り組むことが必要。
- 民生用と安全保障用の技術の区別が困難となる中、**デュアルユース領域での生産・技術基盤の強化が不可欠**。
- この結果、①防衛力強化のための投資が国内外の民生市場における競争力の強化につながり、同時に、②国内外の民生市場の獲得により強化された生産・技術基盤が防衛装備品の質と量の向上につながる、「**防衛と経済の好循環**」を実現することが可能。

## 防衛力強化がどのように「好循環」に寄与するのか

- 防衛分野の取組には民生分野とは異なる次のような特性あり。
  - ① 持続的な対応能力や主体性・自律性の確保等の観点からは、**国内での開発・生産が重要**。
  - ② 無人機・宇宙・サイバー・AI等の分野は「新しい戦い方」を踏まえた我が国独自の対応のカギ。  
→ **我が国の強みを生かして成長が期待される分野**と重複。
  - ③ 防衛省は、装備品を研究・開発し、これを取得。  
→ 新たな技術・サービスの供給力を生み出すと同時に、**継続的な「需要」を創出**。
  - ④ 防衛省は、装備品を自ら開発・運用し、これを改善。  
→ **技術・サービスの改良・高度化を、供給者に伴走**する形で実施。
  - ⑤ 防衛省は、多数の隊員、基地・駐屯地、演習場・海空域等を利用し、技術・サービスを実証・運用。  
→ **民間では代替困難な実証基盤**として機能。
- これら特性を活かすことで、**防衛力強化が「防衛と経済の好循環」の大きな牽引力となる可能性**。

# 「防衛と経済の好循環」に資する事業の類型

## (1) デュアルユース技術・サービスの研究開発を防衛省が牽引（スピノフ）

⇒ 防衛ニーズに基づき最先端技術の研究開発を実施することにより、民生・国際市場で競争力を持つ国産の製品・サービスを民間企業が創出することに寄与。



衛星コンステレーション

## (2) デュアルユース技術・サービスを普及させる起爆剤として機能（スピノン）

⇒ 防衛分野でも使用することで、民生分野由来の技術・サービスの社会実装と製品・サービスの改良及び市場拡大を加速。



デジタルツイン

## (3) デュアルユース技術・サービスの研究開発に不可欠なインフラの提供

⇒ 防衛分野の研究開発に必要な試験・実証基盤を整備し、防衛分野に寄与しうる大学、国研、企業等と連携して活用することで、民間の最先端科学技術の研究開発を後押し。



試験用風洞

## (4) 将来性のあるスタートアップの経営基盤強化

⇒ 防衛省との契約や出融資を通じてスタートアップの信用力を高め、民間資金の呼び込みを促進。



Defense Innovation Meeting

## (5) 自衛隊のサイバー防衛能力を活用した経済活動基盤の防護

⇒ 平素からのスレットハンティング等の取組を通じ、自衛隊の活動に必要な民間の経済活動基盤の防護に寄与。



「ロックド・シールズ2026」

